

主なご質問とご回答

【 『観測データと解析データ① ～点から面へ～』に関連するご質問 】

- 最新の気象データのページから災害時などには特定期間の気象データなるページがあります。これ自体非常に助かりますが、オープンの基準などあれば教えていただきたい。災害時のまとめに非常に助かっています。あとはその賞味期限、できれば長期でそのページを残していただきたい。
→ ご利用いただきありがとうございます。オープンの基準は、2 日以上の期間にわたって顕著な現象の発生が見込まれる、あるいは発生し、防災上の資料として必要と判断した場合に公開しています。計算機の負荷を考慮する必要があるため、ホームページ上では 1 週間程度を目安にメニューから消去することとしていますが、防災上の資料として、できる限り長い期間掲載するようにしています。公開期間についてご理解をいただけますと幸いです。
- 面展開においても誤差は免れないと思いますが、その誤差解消のために新たにアメダス観測を増やすなどのアイデアはありますか？あるいは、アメダス以外の局地的な観測データの投入・利用の可能性はありますか？
→ 面的気象情報の精度向上につきまして、気象庁以外の者が行う観測データの流通を促進する取組を通じて、これらデータを当庁の面的気象情報にも活用していくことを検討しています。
- 面的気象情報に、風向・風速の情報は表現されていないのでしょうか？
→ デジタルアメダスアプリでは、三十分大気解析と MSM モデルの結果を表示しています。より詳細な風の情報に対するニーズがあることは承知しており、今後どのような情報を提供できるか、技術的な課題も含めて検討していきます。
- 例えば風速では市街地ならば建物の影響を受けることがあると思いますが、推計気象分布には、そういう影響はないものとした値が示されているのでしょうか？
→ ご認識のとおりです。

- 相対湿度の推計分布情報は提供されるのでしょうか？面的データについても公開予定でしょうか？
 - 湿度の推計気象分布(面的データ)について、現在開発を進めています。提供時期については、決まり次第、技術情報等でお知らせします。
- 毎日飛ばされている高層気象（ゾンデ）の観測データを提供していただけますか？
 - ラジオゾンデによる高層の風、気温等の情報は、気象庁ホームページにて検索していただけます。
<https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/upper/index.php>
また、気象業務支援センターからも入手することが可能です。
<https://www.jmbasc.or.jp/jp/online/file/f-online00100.html#kousou>
- 気象衛星ひまわりの観測で、たしか日本時間午前 3 時ごろに毎日欠測となっていると記憶しているのですが、これは太陽自動回避による欠測でしょうか？
 - 気象衛星ひまわり 8・9 号においては、衛星保守のためフルディスク観測（衛星から見える地球全ての観測）を行わない時間があります（例えば、日本時間で毎日 11 時 50 分の観測と 23 時 50 分の観測）。また、春分期・秋分期の太陽自動回避のために観測の一部を休止することがございます。詳細は以下のウェブページをご参照ください。
【衛星保守に伴う観測休止】
https://www.data.jma.go.jp/mscweb/ja/info/hk_info.html
【春分期・秋分期の太陽自動回避による画像欠損及び観測休止】
https://www.data.jma.go.jp/mscweb/ja/info/sun_avoid.html
- 今検討されている面的データの公開は気象業務支援センター経由を予定されていますか？
 - 面的統計値など、新たに整備する面的データは、気象業務支援センターからも提供を予定しております。

- 質問ではなく要望となるが、農業にとって日射量データは大変重要なので、その面的データ整備についてもナショナルミニマムに位置付けて進めていただきたい。

→ ご要望として承りました。当庁としてどのような対応が可能かを検討する上での参考とさせていただきます。

- 面的統計値やデータの活用のためには、まず試ってみることが必要だと思います。期間を限定しても結構ですので、業務支援センター経由ではなく、無料で使える環境を提供される計画はないのでしょうか？使えるという根拠なしにお金を払ってデータを取得するのは難しいです。

→ ご意見ありがとうございます。面的統計値については、令和8年度に「面的統計データの利活用講習会（仮）」を開催して実際に試作データを用いて解析方法等を学んでいただける内容を予定しておりますので是非ご参加をご検討ください。

気象データについては、アメダスの過去データ等は気象庁ホームページからダウンロードしていただける環境となっております。ご指摘のような、データの試用がより容易になるような環境については、引き続き検討してまいります。

【 『解析データ② ～長期再解析データ JRA-3Q～』 に関連するご質問 】

- JRA-3Qは鉛直100層とのことですが、気圧面によるものと認知しています。地上高等の標高による分解層であるとありがたい場面が多いのですが、対応の可能性は今後ありますでしょうか？

→ 鉛直100層のデータはモデル面によるもので、地表面付近は地形に沿い、上層は等圧面となっております。詳細は配信資料に関する技術情報 第639号の「6.1. モデル面（ハイブリッド座標）」をご覧ください。標高別のデータの提供は予定しておりません。

【配信資料に関する技術情報】

<https://www.data.jma.go.jp/suishin/cgi-bin/jyouhou/jyouhou.cgi>